

## 私にとってヌエックとは

岡山県 岡山県男女共同参画推進センター情報交流員

橋井 順子（はしい じゅんこ） 54歳

開館40周年おめでとうございます。私のヌエックとの出会いは、ジェンダースタディを深めた先にある聖地のような場所でした。

広島から岡山に転居した私は、平和学習をしなければ、と思い、広島女性大学にアクセスしました。けれどもそこは女性問題の学習の場、目からうろこの講師の言葉に出会いました。

「女性問題が解決すれば、全世界の半分をしめる女性が救われる」

その後は時代が私のために進んでくれました。俄然やる気になった私が卒業の時に言われた言葉は、「来年は岡山で日本女性会議があるから参加してみたら」。何かわからないまま参加した私は著名な先生方とおしゃべりし、備前市の方の目にとまりました。「男女共同参画推進レディになりませんか？」日本女性会議の楽しさを引きずったままOKの返事をし、今に至るまで備前市の推進をしています。

また、日本女性会議であったグループより、「ヌエックが基本法の草案に取り組んでいる」と聞き、「国立女性会館」というものがあるんだ！！と目指すところとなりました。折も折、岡山県の男女共同参画アドバイザー養成講座で出会った仲間と「小学生のジェンダー意識調査」に取り組み、それを夏のヌエックで発表するというではありませんか。すぐについていきました。そのときの感激は今でも忘れません。一人ひとりが認め合い、困っていたら手が差し伸べられる、ロールモデルとシスターフッドの見本市のようでした。「ヌエックに行ったら元気になれる」「安心して素のままの自分でいられる」という言葉が飛び交い、「そうだよな～」とほっこり納得したものです。

今、岡山県男女共同参画推進センターの職員をさせていただき、ヌエックの研修に毎年参加し、オーガナイザーの修了証もいただきました。これをいかして、岡山県のセンターがヌエックのように「女性が安心できる場所、元気になれる場所」になるよう、取り組んでいきたいと思います。